

赤米ニュース

第310号

(2023年1月31日)



東京赤米研究会

〒186-0003 東京都国立市富士見台 4-11-13 メゾン国立 201 長沢方 (Tel.042-577-6855)

おしらせ	2
おたより	5
『赤米ニュース』第241号～260号総目次	6
表紙解説：東京の蝶①—ナミアゲハ—	8

おしらせ

●昨年を振り返って

明けましておめでとうございます。2023年（令和5年）の幕開けを迎えるにあたり、会員の皆様から昨年1年間、本会に寄せられました御援助・御協力に対し、あつく御礼申し上げておきたいと思えます。勝手ながら本年もまた、変わらぬ御支援・御協力をたまわることができれば、幸いに存じます。よろしくお願い申し上げます。さて、いつものように、昨2022年の活動を、ざっと簡単に振り返ってみたいと思えます。長引くコロナ禍にともなう社会的な制約や自粛ムードも、少しは緩和され、昨年はどこでも割合に自由な活動ができたもののように、まことに喜ばしいことであったように思えます。

東京都国分寺市内で活動する三つの赤米関係の諸団体では、相変わらず活発な動きを見せ、さまざまな関連イベントがおこなわれてきました。まずは赤米セミナー（大石岳人代表）の活動ですが、今年も市内の恋ヶ窪公民館を拠点として、2階中庭での共同バケツ栽培がおこなわれました。4月27日には年次総会も開催され、この年の活動方針が決まっています。公民館でのバケツ栽培はまことに順調で、久々に豊作が達成され、秋には無事に稲刈りを終えることができました。12月5日には刈り取った稲藁を用いて、恒例の正月用のシメ縄作りもおこなわれました。

次に国分寺赤米プロジェクト（坂本浩史朗代表）ですが、この年も国分寺・青梅市内の1100㎡もの広大な農地を用い、自然農方式での大々的な赤米栽培がなされています。残念ながら収穫量は約70kgほどで、例年の半

分ほどにとどまったとのこと。12月10日には国分寺市内の本町南町八幡神社で、恒例の赤米祭も開催され、これで第4回を数えることになりましたが、プロジェクトのメンバーらが勢揃いして、盛大な祝宴もおこなわれました。

一方、赤米プロジェクトが事務局を置く国分寺市内の胡桃堂喫茶店では、この年も1～2月に恒例の赤米フェアが開催され、従来の赤米定食に加えて「赤米くるみカレー」・「赤米あられ」などの新メニューも登場して、好評を博しています。赤米ビールの商品化も昨年に続いて実現し、新商品として「あけに恋して」の販売も始まりました。

さらに国分寺赤米会（龍神瑞穂会長）の活動ですが、今年も国分寺市立第五小学校と連携して、子供たちの手による赤米作りのサポート事業が、年間を通しておこなわれました。また、テレビ局からの依頼に応え、NHK・BSプレミアムのセミ・ドキュメンタリー番組、「ダークサイド・ヒストリー」への制作協力をおこない、国分寺市内産の赤米稲が番組撮影に用いられることにもなりました。クラウド・ファウンディング方式による赤米甘酒作りなども企画され、愛知県内の醸造業者の手で仕込まれた赤米甘酒「赤米小町」の販売も実現することになりました。国分寺市内のレストラン、「沖本カフェ」でも、赤米会の指導による赤米栽培と展示とが、おこなわれています。

この年の赤米会の活動は、武蔵国分寺跡地の史跡畑での4月30日の初作業から始まり、土壌調査なども例年通り実施されています。5月17日には地元農家の協力によって、畑のトラクター耕起やマルチング作業などがおこなわれ、同24日には種まきや移植苗の植

え付けがなされました。6月2日には、五小5年生の約100名の児童らが史跡畑での種まきをおこない、新聞にも報道されました。6月9日には、五小校庭のビオトープ水田で田植え作業もなされております。7月15日には、五小体育館にて赤米会による特別授業もおこなわれ、赤米の歴史や文化が児童らにもわかりやすく解説されました。

夏場の6月17日・7月7日・同23日・8月16日・同26日・9月6日には、史跡畑での共同除草作業が繰り返し実施され、赤米会のメンバーがつねに10～20人、奉仕にあたりました。こうして収穫の秋を迎え、五小校庭のミニ田んぼでは9月22日に、史跡畑では10月3日に、盛大な稲刈り・脱穀作業が実施され、5年生児童らが参加しました。

国分寺市内では以上のように、2022年も例年通り、さまざまな形で赤米作りに関する諸活動がおこなわれ、多大な成果があげられています。東京赤米研究会にも、全国各地から赤米種子の配布希望が寄せられ、各品種の赤米種子が各地に提供されました。特に神奈川県内のエスニック料理店からは、ブータン種赤米の配布希望があり、大々的な水田栽培がおこなわれて、大量の収穫米が将来、食材として店内で提供されていくことが期待されています。

赤米作りの輪が、さらに全国に広がっていくならば、いろいろなユニークなところみや町おこし、新商品開発にもつながっていくことでしょう。そのような諸活動に対し、東京赤米研究会は、今後とも惜しみないサポートをおこなっていくつもりでおりますので、遠慮なく、ご相談を寄せていただきたいと思います。なおも続くコロナ禍の中でのいろいろな制約はあるものの、もう少しの辛抱です。

会員の皆様には今年もおおいに頑張っていただき、多くの収穫があげられますよう、心から念願しております。そして、皆様の御健康・御多幸とを祈願しつつ、新年の御挨拶とさせていただきますと思います。

●赤米プロジェクトの赤米祭

東京都国分寺市の赤米プロジェクト（坂本浩史朗代表）の主催による第4回赤米祭が2022年12月10日（土）、国分寺市内の本町南町八幡神社で盛大に開催されました。国分寺赤米プロジェクトでは、本年も都下青梅市内の水田を用い、1100㎡もの面積で自然農方式での赤米栽培をこころみておりましたが、残念ながらその収穫量は昨年の半分の約70kgにとどまり、過去最低の水準であったとのこと。国分寺市内の本多家の場合、同じ方式を用い、300㎡で120kgの収穫を達成しておりますので、本年の青梅市内の赤米作りはかなりの不作であったということになります。とはいえ今年の収穫米は例年通り、国分寺市内外の諸神社に奉納され、本町南町八幡神社では12月10日の赤米祭に先立って、渡辺宮司による赤米奉納奉告祭の神事がとりおこなわれて、赤米プロジェクトのメンバー約30名が参列しました（写真参照）。

神事の終了後は社務所に場を移し、赤米祭の直会が盛大におこなわれました。祝宴では、白米糯米（農林1号）・白米粳米（伊勢光）・赤米100%（武蔵国分寺種）・赤米と白米の混合の4種類のお握りと、黒大豆・サツマイモで作られた味噌味の特製呉汁がまず振る舞われ、とてもおいしいと評判でした。そのほか、メンバーが持ち寄った御馳走や御神酒などもたくさん用意されており、おおいに話も盛り上がり、楽しいひとときを過ごすことがで



本町南町八幡神社にて赤米奉納奉告祭が、今年も盛大におこなわれました (12月10日)



直会もなごやかに過ごされました



赤米お握りもおいしかったです

きました。

まことに残念なことながら、赤米プロジェクトの代表者である坂本浩史朗さんは、本年3月一杯で胡桃堂喫茶店を退職されることとなり、赤米プロジェクトの活動は一区切りの

時を迎えることになりました。メンバーからは、坂本さんの引退を惜しむ声が多く寄せられるとともに、5年間にわたってすぐれたリーダー役をつとめて下さったことへの感謝の意が伝えられました。坂本さんが赤米作りに

寄せられた熱い情熱を、ぜひとも若い後継者の方々が今後、継承していただきたいと思います。坂本さん、長い間ご苦勞様でした。坂本さんの今後のご活躍を期待しつつ、長年にわたる本会へのご協力に対しても、深い感謝の意をここに述べて、お別れの言葉とさせていただきますと思います。坂本さん、今までありがとうございます！。そしてお元気で！。

おたより

●来年もよろしく（富村隆子）

年末を迎え、なにかと慌しくなってきました。先日は赤米セミナーのしめ縄作りにお出下さしまして、ありがとうございました。今年のバケツ栽培はかなり順調で、来年の種籾も確保することが出来、メ縄作りで来年に繋げられるのを大変嬉しく思っております。『赤米ニュース』はいつも参考にさせて頂いて居ります。来年も引き続きお送り頂きたく、よろしくお願い致します（12/27：東京都国分寺市）。

●令和5年もよろしく（猪浦雅之）

国分寺赤米会、今年の小学5年生の農業体験も無事終了して、楽しい思い出が走馬灯の様に脳裏に浮かんできます。世界では戦火の中、一日の食も満足に得られない人々や子どもたちがいる中、自身で撒いた種が約4ヶ月して見事に生育した稲穂が頭を垂れる光景を見て、一粒の米のありがたさに、大自然の恩恵に感謝、感謝です。これからも一人でも多くの子どもたちに体験して貰いたい楽しい貴重なイベントです。会の皆さんと共に来年も体力の続く限り、一生懸命頑張る所存ですの

で、よろしくお願い申し上げます。『赤米ニュース』、毎月郵送いただき、お礼申し上げます。切手を同封いたしましたので、ご笑納下さい。令和5年もよろしくお願いいたします（12/29：東京都国分寺市）。

●種籾をありがとうございました（田中光里）

旧年中は赤米の種籾と『赤米ニュース』を送ってくださり、ありがとうございました。赤米の堂々とした姿に力強い生命力を感じて、胸が熱くなりました。バケツ稲と田んぼの二つで育てていきたいと思っております。途中途中で観察報告をと思っております（1/1：栃木県鹿沼市）。

●赤米甘酒できました（前澤 宏）

昨年は、武蔵国分寺種赤米の甘酒をクラウドファンディングで作りました。原種に近い赤米を使って、酒造で作ってもらいました。お陰様で86名の方に支援いただき、目標を達成できました。この取り組みで、大学生や娘の同級生など、若い方々にお手伝い頂き、若返りました（1/1：東京都国分寺市）。

●今年も宜しく（坂 真矢子）

本年も『赤米ニュース』を宜しく申し上げます。私はボタニカルアートを始めました。久々に描いています（1/1：愛知県名古屋市）。

●北陸へもぜひ（米村 創）

昨年はいろいろ有難うございました。本年もよろしくお願い申し上げます。大変ご無沙汰していますが、今年も『赤米ニュース』など楽しみにしています。機会がございましたら、北陸へもお立ち寄り下さい（1/1：富山県滑川市）。

●おめでとうございます (高橋寿子)

あけましておめでとうございます。時を選んで多摩川を遡上し、沢井の楓橋からスケッチを楽しんだのは九月のことでした (1/1 : 東京都国分寺市)。

『赤米ニュース』第 241 号 ～260 号総目次

第 241 号 (2017 年 4 月 28 日)

4 月の赤米作り—————1925
おしらせ (国分寺市の学校給食に赤米登場！、
種籾の配布まだ間にあいます) ———1928
国分寺の赤米の 20 年 (II) —長沢利明 1932
表紙解説—————1932

第 242 号 (2017 年 5 月 31 日)

5 月の赤米作り—————1934
おしらせ (国分寺市の学校給食に赤米登場！
つづき)—————1936
おたより (米村創：学校給食に赤米登場、高橋
りょう子：赤米給食が実現しました、須崎
宏：小学校の給食に赤米、高杉強：Lホー
ルで展示の継続を、多久島實：「ベニロマン
」をぜひ) ———1936
国分寺の赤米の 20 年 (III) —長沢利明 1939
表紙解説—————1940

第 243 号 (2017 年 6 月 30 日)

6 月の赤米作り—————1941
おしらせ (国分寺市の学校給食に赤米登場！
つづき) ———1943
おたより (米村創：今年は小学校で、長沢利
明：「こくベジ」は今年も、米村創：小学
校で赤米栽培) ———1943
国分寺の赤米の 20 年 (IV) —長沢利明 1945
表紙解説—————1948

第 244 号 (2017 年 7 月 31 日)

7 月の赤米作り—————1950
おしらせ (赤米給食の新聞報道、国分寺Lホ
ールで赤米展のつづき、狛江市でも赤米栽
培が始まりました、国分寺市内各地で赤米
苗を展示) ———1951
おたより (多久島實：「ベニロマン」元気です、
宇佐美哲也：狛江市内でも赤米を、川口哲
秀：5 月 29 日に植えました、澤口宏：20
周年とはすごいですね、川口哲秀：今年は
順調です、長沢利明：日本の米作りは高コ
スト) ———1953
国分寺の赤米の 20 年 (V) —長沢利明 1955
表紙解説—————1956

第 245 号 (2017 年 8 月 31 日)

8 月の赤米作り—————1958
おしらせ (今年度の赤米栽培農家、国分寺L
ホールで赤米展示中) ———1959
おたより (宇佐美哲也：失敗しました、ごめ
んなさい、川口哲秀：120 cmまで伸びました、
長沢利明：カラ梅雨の東京) ———1960
国分寺の赤米の 20 年 (VI) —長沢利明 1961
表紙解説—————1964

第 246 号 (2017 年 9 月 30 日)

9 月の赤米作り—————1966
おしらせ (国分寺市内で次々に赤米出穂)
—————1968
おたより (長沢利明：害虫にやられました、
米村創：赤米稲、開花中！、長沢利明：飲
んでみたい赤米ビール) ———1968
国分寺の赤米の 20 年 (VII) —長沢利明 1970
表紙解説—————1972

第 247 号 (2017 年 10 月 31 日)

10 月の赤米作り—————1974
おしらせ (第 8 回現地見学会の報告) ———1976
おたより (米村創：赤米稲、今年も順調、川

口哲秀：タヌキの仕業?）—————1978
 国分寺の赤米の20年（Ⅷ）—長沢利明 1979
 表紙解説—————1980
第248号（2017年11月30日）
 おしらせ（会員登録の更新のお知らせ、国分
 寺市内でいっせいに稲刈り）—————1982
 おたより（藤村政良：赤米が満開です、川口
 哲秀：赤米が実りました、長沢利明：野ネ
 ズミの仕業?）—————1983
 国分寺の赤米の20年（Ⅸ）—長沢利明 1985
 表紙解説—————1988
第249号（2017年12月31日）
 おしらせ（国分寺市立第二小学校の赤米作り、
 市長さんと一緒に赤米給食、市民農業大学
 での赤米作り、国分寺市内で合同脱穀作業、
 今年も「ぶんぶん・うおーく」開催、再度
 会員登録の更新のお知らせ、前号の訂正）
 —————1990
 おたより（浅見孝：脱穀作業の延期、川口哲
 秀：無事に収穫、多久島實：「紅ロマン」
 を無事収穫、長沢利明：今年の米の新品種、
 米村創：来年も楽しみです、梅原薫：公民
 館で赤米講座）—————1995
 表紙解説—————1995
第250号（2018年1月31日）
 『赤米ニュース』第1号～第40号総目次
 —————1998
 おしらせ（本年もよろしくお願ひ致します）
 —————2003
 おたより（藤村政良：武蔵国分寺種を、米村
 創：今年もよろしく、安本義正：本年もよ
 ろしく）—————2004
 表紙解説—————2004
第251号（2018年2月28日）
 おしらせ（赤米の歴史講座、開催決定!）
 —————2006

おたより（多久島實：来年もよろしく、藤村
 政良：おめでとうございます、山田義高：
 謹賀新年、坂真矢子：おめでとうございます）
 —————2006
 『赤米ニュース』第41号～第80号総目次
 —————2007
 表紙解説—————2012
第252号（2018年3月31日）
 おしらせ（「武蔵国分寺種赤米」の歴史講座開
 催、前号の訂正、今年度用の種籾の配布）
 —————2014
 おたより（米村創：歴史講座、手伝いに行き
 ます、須崎宏：勉強になりました）
 —————2018
 種子島豊満神社資料集（38）—————2018
 表紙解説—————2020
第253号（2018年4月30日）
 4月の赤米作り—————2022
 おしらせ（歴史講座、第2回目を開催、歴史
 講座第3回目は納豆作り!、種籾の配布、
 まだ間に合います）—————2025
 おたより（梅原薫：楽しいお話に感謝、米村
 創：興味深く拝聴、梅原薫：楽しいお話に
 感謝、長沢利明：歴史講座の受講生の皆さ
 んへ）—————2027
 種子島豊満神社資料集（39）—————2027
 表紙解説—————2028
第254号（2018年5月31日）
 5月の赤米作り—————2030
 おしらせ（歴史講座、第4回目を開催、「赤米
 納豆」の作り方まとめ）—————2032
 表紙解説—————2036
第255号（2018年6月30日）
 6月の赤米作り—————2038
 おしらせ（Lホールでの赤米展示終了、歴史
 講座「まとめの回」、狛江市の古民家園で

も赤米作り, COCOBUNJI プラザの開館記念イベント, 赤米セミナーレで初作業	私の赤米作り, 坂本浩史郎: 赤米栽培奮闘中)
—————2040	—————2065
おたより (山田義高: 赤米三種の種籾を送ります, 宇佐美哲也: 今年こそ頑張ります, 石本敏也: 黒米の資料, 長沢利明: 玄米としての「黒米」, 梅原薫: チラシを作りました, 米村創: 本多家長屋門を公開中)	赤米雑話 (154)
—————2042	—————2067
種子島豊満神社資料集 (40)	表紙解説
—————2043	—————2068
表紙解説	第 259 号 (2018 年 10 月 31 日)
—————2044	10 月の赤米作り
第 256 号 (2018 年 7 月 31 日)	おしらせ (第 9 回現地見学会の報告, 『赤米ニュース』WEBB 版開設)
7 月の赤米作り	—————2072
—————2046	おたより (梅原薫: 花が咲きました!, 梅原薫: 台風にも無事!, 佐藤照美: 暑中お見舞い申し上げます, 駒場美由紀: 赤米は元気です, 駒場美由紀: 千葉県館山市でも)
おしらせ (歴史講座のアンケート結果, 赤米セミナーレの年間計画, 公民館祭を開催)	—————2074
—————2048	表紙解説
おたより (渡戸道子: 赤米作り、楽しみです, 米村創: 5 cmほどに成長, 梅原薫: 芽が出ません…, 佐藤照美: 小学校で赤米作り, 梅原薫: 芽が出ました!)	—————2076
—————2052	第 260 号 (2018 年 11 月 30 日)
表紙解説	11 月の赤米作り
—————2052	—————2078
第 257 号 (2018 年 8 月 31 日)	おしらせ (会員登録の更新のお知らせ, 恋ヶ窪公民館で「赤米講座」)
8 月の赤米作り	—————2081
—————2054	おたより (佐藤照美: 残暑お見舞い申し上げます, 川口哲秀: 台風にも無事!, 川口哲秀: 猪豚に食べられました)
おしらせ (「お寺の赤米」、今年も順調!, 国分寺五小で赤米給食, 「武蔵国分寺種」、京都へ!, 国分寺市議会での赤米関係の質疑)	—————2083
—————2055	稲の収穫祭と神社信仰 (I)
おたより (川口哲秀: 今年には五合収穫が目標, 前澤宏: 8 人の仲間, 宇佐美哲也: 狛江市でも赤米が発芽)	—————長沢利明 2083
—————2060	表紙解説
表紙解説	—————2084
—————2060	
第 258 号 (2018 年 9 月 30 日)	
9 月の赤米作り	
—————2062	
おしらせ (こんなに大きくなりました)	
—————2064	
おたより (梅原薫: 50~60 cmに成長, 前澤宏:	

[表紙解説] 東京の蝶①—ナミアゲハ—

都市化の進んだ東京都内にも、まだ少しは自然が残っており、決して捨てたものではありません。市街地内に残存するわずかな緑地帯には、意外なほど多くの昆虫類が生き残っていて、美しい蝶も結構たくさん見られます。そこで今年は、東京都内に棲息する蝶類をいろいろ紹介してみることにしましょう。まずは代表的な夏の蝶であるアゲハチョウですが、正式にはナミアゲハといいます。こうして写真を掲げますと、見慣れた蝶とはいえ、なかなか美しいもので、まるで「ジャポニカ学習帳」の表紙のようです。